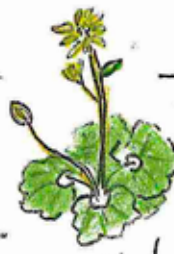


お茶の時間



古からの付き合いが済んで久しい。
昔は生垣が大半で、それぞれの家に趣きを添えていたものだ。
今、我家の庭でサザンカの花がゆさゆさい姿で咲いている。暖かい日が続いたせいか、ライラックや雪柳が咲き、驚いている。
日本人が愛してやまない桜が、何やら妙なものに利用され、情け無いやら恥ずかしいやら。
あつた事を、無かったことにするのか。やっばり。

瀬戸内寂聴さん(97才)の言葉。
「笑むは男、泣くは女。選り手、稲垣啓太さん(新潟県出身)が、インディビジュアルで「真剣勝負」としてこの世に笑っていられたらいいな」といふように、笑っていられたらいいな。それには、せめて人と比べて、笑っていられたらいいな。内容は、笑顔をみせてほしいものだ。これから結婚をし、父親に会った時に、キッと優しい笑顔に甘んじよう。だって赤ちゃんと、身近な人の表情や言葉は、言葉よりも、笑顔が長くとくくのたから。稲垣さん。いくら笑い笑ったらいい。稲垣さん。



こころに響く言葉

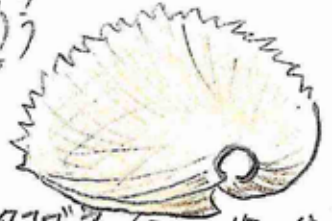
北風が吹いたら...

海はすぐそこにあって、早朝や夕日の沈む頃の波辺の散歩を忘れていた。
9月のある夕方、久しぶりの散歩で、ずいぶん昔、たぶんおぼろげなことを思い出し、船のそばで網の手入れをして、漁師さんに尋ねた。
「たぶんね、打ち上げの網でくるのは北風が吹く頃だねえ」との返事。
北風と共に南の島からやってくるのだそう。

11月の休日、朝食を済ませ波辺に出かけた。
誰もいない海。波が荒く打ち上げてる。様々なゴミが、目につく。肝心な物が見つかうまい。

たぶんね、カイダコ科アオイガイ属、アオイ貝(葵貝)と呼ばれる。
雌が2つを見れば、内側に卵のつみ産みつけ保育する。
生きているのを捕えることは珍しいと思うが、年によつて打ち上げられる数にバラつきが、場所や時間帯というより季節風が吹いて荒い波が静まった時に見つけやすいらしい。
就寝暖流に運ばれてくる。興味を持つ人は多いようで、先に見つけられるか運まかせ、である。

新潟市水族館・日本海マリニピアの問合せは、殻の展示も無い。と、あきうのちりて、又探りに行く。せうく洛の近くで暮らしているのだから。
見つけられぬら、感謝しよう。



タダコ(5cm~15cm位) (30枚前後8cm程度の殻を拾った今晩)

歯のよもやま話 第四十三話

歯科の技術・工学 全部床義歯

今回は取り外しのできる義歯、即ち入歯についてお話しします。歯が一部残っている場合の入れ歯(部分床義歯)はその設計上千差万別でいろいろな装置が付くことが多く、簡単にお話しできませぬので、歯が一本も無い方の義歯(全部床義歯)が一本も無いという事は、口の中に固定源が無いという事でなかなか難しいのです。上顎は吸盤の作用を応用していますので比較的安定させることができますが、下顎はそれ自体動いていますし舌やたくさんの筋肉もついていて、どうしても不安定になります。上顎と下顎のバランスや筋肉の包み込む力をうまくコントロールして良い義歯を作製するのは歯科医の腕です。

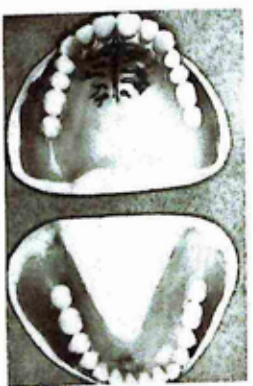
この様な吸着する方式の義歯を日本では室町時代から使用し本物も残っていますが、欧米では一八世紀頃までバネを使ったりして無理やり押し込んでいました。そのため見た目だけでほとんど使用に耐えないものでした。アメリカのドル札に描かれた初代大統領ワシントンの顔が苦虫を噛み潰したようなのは入れ歯のせいだと言われています。この話は以前書いたことがあります。

まず口腔内の型を採って模型を作りその上で設計します。型を採るトレーを顎に合わせて作り直し、それで再度型を採り、ここに石膏を流して顎の模型を作ります。この上で上下顎の噛みあわせを採

る床(咬合床)を作り患者さんの口腔内で上顎と下顎の位置関係を記録します。これを咬合採得といえます。この顎模型を上下顎の運動を再現する咬合器に装着します。この顎模型の上で人工歯を並べ、歯肉を形成していきます。人工歯は既成の陶歯またはアクリル樹脂歯を使うことが普通です。また歯肉と床の部分はワックスで作ります。これを蝟義歯とい



咬合器に装着された顎模型



完成した蝟義歯



完成した総義歯

蝟義歯が完成したら患者さんの口の中で試し良好であればワックス部分をアクリル樹脂で置き換えます。レジン置き換え方法はいろいろありますが最も一般的な方法を紹介します。まず顎模型ごと蝟義歯を金属のフラスコの中に石膏で埋没します。これを加熱しワックスを流し去ります。ワックスが流れてでき た空洞にアクリルレジンを押入し硬化させます。硬化後取り出して調整、研磨すれば完成です。ああ疲れた。書く簡単ですがすごく大変なのです。

子田晃一

31年前、家庭新聞からスタートの「お茶の時間」

新潟の、おいしい洋梨ルレレクエヤザンカも描いて。イラストは思いつくまま描いた。

1988.12.22

第4号

お茶の時間



12月はクリスマス。「サンタのお城が北海道・広尾町の牧場に到着する」という新聞の記事に目を惹かれ、サンタ・クロス対論会を行っていました。

「かつて子供だったことを忘れていない大人は、いくついても、星の王子さまの作者 サン・テグジュペリは言っているが、私はそんなことはないと思います。」

カール・ジャコブの世界、スピルバーグのジュラシック、世界中の著名作家、漫画家。皆、子供だったことを忘れていない人達ばかりです。私は、それらに触れ、見、感じ、喜ぶ人達は子供の心を失っていないのです。

毎年、クリスマスの日の朝、子供達の興奮した声に起される親も、子供だったことを忘れてはいないのです。大人の仲間入りをし始めた長男も、やはり子供だったことを忘れぬ一人です。

ある時、長男に「お前が大人、夢をいつまでも持たせてくれるのは嬉しいけど、壊れた時のショックは大いなんだよ。」と言われました。でも、きっと素敵な大人になてくれることでしょう。

♪ Y. お城からー ヴィー・クリスマス
♪ Y. お城からー ヴィー・クリスマス

サンタ・クロスはいる？
いない？

パパ 「いる。ステーションのどこかにいる。」
ママ 「いる。プレゼントが毎年届く。信じているともえる。」

次男 「いない!! デスマークで暮らしていた時、暖炉に足跡があったけど、暖炉から入れるというのは、ドロボーも簡単に入れるからよく考えればパパのブーツで足跡をつけたと思う。手紙もあったけどサンタ・クロスが日本語を書けるはずがない。英語の手紙もパパが書いた。ユースキーがへつたのはお前さん達が呑んだ。毎年パパ達がコッリ部屋に置いている。」

三男 「サンタはいる。マンガとかで辞典にもサンタ(三太)がいた。」
ロケル犬・ボス 「ワンワン、サンタは犬の世界にいないワン！」
金魚たち 「.....」

サンタはいる!! と答えた人に質問。
Q. なぜ サンタは真夜中に来るのでしょうか。

パパ 「赤鼻のトカイが暗くても照らしてくれし、昼間ではみづからして。みづからと三分も四分もプレゼントを取られるのでコッリ来る。昔のサンタはゲタを持って来たけどなあ..... どうして道順のサンタはおもちゃを持って来るのだろうか？」
三男 「太陽と一緒に世界中を回る。夜が好き。」
長男 「赤い服は日中めだつ。朝弱い。」

子供達が
彼等の代弁者。

地元新聞に掲載の「明治初期から昭和の戦前にかけて県内で発行された新聞を大量に保管している」の記事が目にとまり、私も「お茶の時間」を振り返してみた。始まりは31年前の家庭新聞「家庭のあそび」でもあったが、年頃の息子達に「知られたくない」...

あじと云われ、休刊も数年後、ミニコミ新聞のスタイルで復刊した。21年の月日が流れ、今に至っている。取替、下調べは念入りにも心がけている。図書館で通ったり、お増え、マイクログラフの保存もしている新聞も閲覧したり。

と楽しんでる。知る楽しさ、吉新聞の編集者は、土曜からの友人、笹川太朗さん(当時医師)新潟ハイカラ文庫主宰。プロで活動に携わって下さい。蔵書家の魅力も、彼から学んだ。良き夜である。



ゆいもの みつけ!

鮮度保持袋 愛菜果 関西紙工/株式会社
ロング 6枚入り、Mサイズ 6枚入り 各146円。

昔は、どこを掘っても砂地の庭で、この季節になると、束ねた根菜類を網に入れ、埋めて保存したものだが、今は、新鮮な品が常時手に入る。少量も買う。それでも、大根やキャベツ、ネギ、白菜など使い切れない野菜は、新聞紙に包み冷蔵保存する。

この面倒で、中身も見えない。と、購入時の袋に入れ替えたばかりで長持ちしなくなった。何か便利なものはないかと探していたら、薬局の用紙袋コーナーで、鮮度保持袋をみつけた。

早速使うと、便利、便利。中身は一目瞭然。残った野菜も簡単に入らるし、長持ちするのが嬉しい。おまけに、冷蔵庫の野菜室もスッキリ片付くようになった。



休日の木曜日朝、TV、羽鳥慎一モーニングショーで知った。呼吸を意識すると自然に姿勢も良くなる。十日程実践してお腹がスッキリ。気持ちいい。スクワットも、しゃかり呼吸と合わせてやった。辛さか知らず。紅葉狩りを兼ねた軽い登山も、順調に足があげた。

「いつもお前がです」と言われるが、それなりに努力をこらしているのだ。起床時と就寝時、ベッドに寝転んだまま行う。入浴前には2分間のリズミ運動。4回吸って6回吐く。脚踏みしさがテンションを良く。先ずは始めてみることにしよう。試しに、深呼吸してからゆらゆらリズミをしてみよう。



「120歳まで生きる ロングプラス」DVD付き
著者 美木 良介
発行 幻冬舎
2019年11月20日発行
定価 1600円+税

いいなこの本

幼い子の命を理不尽に奪う事件が続く。昨年5月に起きた、新潟市西區に住んでいた、小学三年(当時)の児童殺害の判決が出た。無期懲役だった。被害者のご家族の心情は、いかにわかって。

町にクリスマスソングが流れる。イルミネーションが輝く12月。今頃は、履き慣れた靴を履いて、クリスマスも待たずにいよいよである。

数十年前も昔の、我が子供の成長を、表情をなつかしく思い出しながら、様々なことを考え、七転八起き、一喜一憂しながらの人生。こころはみんなど、生きていければいい、このこと、命は重い。命は大切。自分と、キミと向き合おう。自分と、犯人の身勝手は許さないと。

月のつばやき